問 平成29年冬季国体開催決定をうけて
答 村民一丸となり成功に向け盛上げたい

太田伸子議員

【白馬国体について】

問 **第72回国体冬季大会スキー競技会場が白馬村に決定されたが、今後の村の対応は。**

村長 運営母体は長野県で、長野市でスピード・フィギュアスケート、岡谷市・軽井沢町でアイスホッケー、白馬村でスキーと県内４市町村の開催。県の国体実行委員会と関係４市町村の実行委員会と協調し、大会の成功に向けて取り組みを進めます。４月早々に県と今後の進め方について調整していきます。

問 **オリンピックからの古い施設・資材が多いが整備は間に合うのか。**

村長 ナショナルトレーニングセンター指定時に、文科省から国際ルールに合った施設に改修するよう要望があり、インランのクーリングシステムと転倒防止板、競技・リザルトシステムの設計委託費、ジャンプ競技場とスノーハープの圧雪車２台の更新を平成27年度当初予算に計上しています。平成28年度事業で、施設改修工事を考えており、資材の充実については、全日本・長野県スキー連盟、白馬村スキークラブと連携して進めていきます。

【白馬高校存続について】

問 **平成27年度在校生数の見込みは。**

村長 ２年ぶりに全在校生数が１６０名を超えるということで、今後の展開に大きな期待を寄せています。

問 **小谷村との両村の協議の場は。**

村長 理事者や担当者が一堂に会するという機会は少ないので、「白馬高校の将来を考える会」のような時に打ち合わせをして合議案を出しています。

問 **両村の出資金の受け皿は。**

村長 平成27年度は最初の年度でもあり、協議の結果、白馬村一般会計で運営し、小谷村から負担金というかたちをとりました。

【震災復旧事業について】

問 **震災復旧復興計画は。**

村長 被災が一部地域に集中していることから「復興計画」なるものではなく、各復旧事案に対して早急に復旧を目指しています。公共事業関係では局地激甚災害の指定を受けたことによる国庫負担率のかさ上げ・補助率増高の協議により、道路・農道用施設といった施設は原則として被災した施設等を原型復旧することとし、復旧進度は3年間としています。

問 **震災以降の財政調整基金の取崩し状況と基金残高の見通しは。**

村長 平成26年９月末残高は約９億５３００万円でした。震災後、３月定例会補正予算（第10号）時点で、総額約６億３１００万円の繰入額となり、約３億１９００万円の残高となっています。国の補助金や特別交付税などで加算措置される見込みで、決算時には基金の繰入額は、ある程度減額するものと考えています。よって決算時には、今の予算ベースまでは減らないと考えています。

問 **仮設住宅入居者と入居以外の被災者との扱いの公平性は。**

村長 一部の方から自己が用意する物品等に差があるとのご意見をいただきましたが、白馬村義援金配分委員会では議論を重ねた結果、若干金額に差を設け、全壊・半壊ともに仮設住宅入居者については、６万円の減額をすることといたしました。

国体開催に向けて施設整備が始まります